

## 第46回技術士全国大会(四国・徳島)報告

### 「新たな世代(とき)へ、技術士の挑戦」～四国・阿波からのメッセージ～

令和元年10月4日(金)～6日(日)、徳島県徳島市あわぎんホール他において、第46回技術士全国大会が開催され、北海道本部青年技術士交流委員会メンバー13人が参加しました。この開催概要を以下にご報告いたします。

#### 1. テクニカルツアー

##### ①吉野川第十堰 現場見学会

旧吉野川と吉野川流域の上水道、工業用水、農業用水の取水を可能にするなど、地域の水資源確保に重要な役割を果たす吉野川第十堰について、徳島河川国道事務所池添副所長から、ご説明をいただきました。



写真-1 吉野川第十堰揭示板



写真-2 吉野川第十堰見学の様子

日本三大暴れ川の一つとして数えられる吉野川の江戸時代から続く氾濫と改修の歴史の他、“よりよい吉野川づくり”に向けた今後の河川整備計画の概要についてご紹介いただき、河川整備事業に関する見識を深める良い機会となりました。

##### ②藍の館 藍染め体験

徳島の伝統産業の一つである“藍染め”を学ぶため、「藍住町歴史館藍の館」にて藍染め体験に参加いたしました。

館長から、藍染めの歴史の他、藍色はまたの名を「勝色」とも言い、サッカー日本代表ユニフォームなどにも採用されるなど、縁起の良い色とされる所以をご説明いただきました。

今回のツアーでは、大会受付で事前に配布された無地の「技術士Tシャツ」を藍色に染めるミッションが組み込まれており、藍の館スタッフの指導の下、各自思い思いの染め方によりTシャツを染め上げました。本場の藍染めを体験できる貴重な経験となりました。



写真-3 藍色に染上げたTシャツを手に集合写真

##### ③講演会

香川大学客員教授松尾様より「吉野川の治水の歴史と防災風土資源及びローテク防災術」と題したご

講演をいただきました。

講演では、吉野川の治水の歴史、吉野川第十堰の整備計画と住民投票にまつわるエピソード、水害リスクと調査に対する考え方に加え、高地蔵に秘められた先人の防災に対する知恵や自身が災害に見舞われた際の手軽にできるローテク防災術をご紹介いただきました。

具体的には、浸水した際のさぐり棒の必要性、新聞紙で作る簡易スリッパの作り方等を詳しくご説明いただきました。

防災には、インフラ整備やICT活用の他、「自助・共助」が不可欠とされるため、今回のご講演はとも参考になりました。



写真-4 講演会の様子

## 2. 大懇親会

テクニカルツアーの後、徳島グランドホテル偕楽園にて大懇親会が開催されました。大懇親会では、統括も含めた各地域の青年技術士と交流を深めました。

また、「S1 グランプリ (地域本部毎の地酒のプレゼンを行い、順位を競うもの)」では、北海道本部が見事優勝を勝ち取りました。



写真-5 S1 グランプリプレゼンの様子 (北海道本部)

## 3. 第4分科会(青年)

### ①基調講演

「楽しく充実した働き方へ、青年技術士の挑戦～ハラスメントや働き方改革の対応と実践～」という分科会テーマのもと、「ハラスメントへの対応」と題して、坂田弁護士から基調講演をいただきました。

様々な業種で、職場における人間関係で起こりうるハラスメントの実態と対処方法について、詳しくご説明をいただきました。

### ②グループワーク

「企業規模と抱える懸案事項」が各グループに割り当てられ、各組織に内在すると思われるハラスメントの抽出とハラスメント対策プロジェクトの立案、社長への報告(グループ代表者によるプレゼン)という形でグループワークが行われました。四国本部の白鳥委員長を社長として見立て、グループごとに持ち時間5分でプレゼンを行い、聴衆の拍手が多いグループが優勝となりました。

企業規模と懸案事項ごとに起こりうるハラスメントとその対象者の想定を行う中で、ハラスメントに関する認識を深める貴重な経験となりました。

また、限られた時間の中で課題抽出と解決策の提案を行い、かつ効果的なプレゼンを行うスキルの重要性も再認識されました。



写真-6 プレゼンを行う須田技術士(幹事長)

## 4. おわりに

今回の全国大会参加の中で、各地域本部の青年技術士の皆様と交流できたことに加え、開催地四国・徳島の魅力に触れたことは、非常に貴重な経験となりました。この場をお借りして御礼申し上げます。